

スイートスーダングラス (*Sorghum vulgare sudanense var. Sweet*) の栽培試験

松本 聰・沢田 耕 尙
九州農業試験場

MATSUMOTO, S. & SAWADA, T. Describing the Result of Experiment with Herbage Yield on some Sweet Sudangrass (*Sorghum vulgare sudanense var. Sweet*) Varieties

Sudangrass (*Sorghum vulgare sudanense*) は、モロコシ属の1年性夏作飼料作物で、草丈(条播)は2~2.5m程度、葉の太さは直径が0.4cmで「分けつ」が極めて多い。なお、この作物は原産地、あるいは現在の栽培分布地よりしても、暖地向の飼料作物であり、とくに夏期高温で乾燥するような地方に適している。そのうえ、暖地に見られるように生育期間中に数回の刈取が可能であり、生草収量が多く、再生力が旺盛であり、すぐれた青刈飼料作物であるので、わが国でも漸次普及しつつある。

さらに、最近 Sweet Sudangrass (以下 S.S. と略称) 及び Tift Sudaugrass (以下 T. S. と略称) のような Sudangrass の改良種が、わが国へ導入されている(在来のものは Common Sudangrass と称される。以下 C. S. と略称)。

これ等は C. S. と Sorgho (Sorghum の甘藷種) の交雑種で C. S. の多葉性と Sorgho のように葉が太く、液汁の甘味を具備し(T. S. の葉は甘味がないが、耐病性が強いので注目される) 生草収量は多く、家畜の嗜好性が高いので C. S. よりもすぐれているとされている。

方 法

(1) 供試品種及び取寄先

Common Sudangrass 雪印種苗株式会社
Sweet Sudangrass (1) U. S. A. 農務省
Sweet Sudangrass (2) U. S. A. 農務省
Tift Sudangrass U. S. A. 農務省

(2) 播種期 4月20日 (3) 播種量(反当升) 3, 畦巾2尺, 条播 (4) 刈取期 各品種の刈取期は、穂揃期とし、1番刈は C. S. 6月29日、その他7月21日、2番刈は C. S. 8月10日、その他9月15日、3番刈は C. S. 9月21日、その他は初霜日10月14日に生育途中で刈取を行った。(5) 施肥量(反当貫) 厩肥300, 硫酸(基肥5, 追肥は各刈取後1) 過石5, 硫酸2 (6) 試験区1区4.5坪, 3区制

成 績

各品種の刈取回数別生草収量を調査した結果の概要は第1表に示す通りである。

第1表 スーダングラス品種の刈取回数別生草収量(反/反)

| 品 種 名 | 刈取回数 | | 1 番 刈 | | 2 番 刈 | | 3 番 刈 | | 総生草収量 |
|-----------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|-------|---------|-------|
| | 刈取月日 | 生草収量 | 刈取月日 | 生草収量 | 刈取月日 | 生草収量 | | | |
| C. S. | 6. 29 | 545.8 | 8. 10 | 1,039.7 | 9. 21 | 1,243.8 | | 2,829.3 | |
| S. S. (1) | 7. 21 | 606.0 | 9. 15 | 1,948.8 | *10. 14 | 152.4 | | 2,707.2 | |
| S. S. (2) | 7. 21 | 664.5 | 9. 15 | 2,071.1 | *10. 14 | 166.3 | | 2,901.9 | |
| T. S. | 7. 21 | 582.5 | 9. 15 | 1,963.9 | *10. 14 | 200.6 | | 2,747.0 | |

註. * 初霜日(10月13日)の翌日刈取った。

各品種の1番刈生草収量は、540～600 疋（反当）で、いずれもすくない。これは熊本（黒石）での4月20日播きは、未だ気温が低く生育が不良であることによると思われる。

2番刈生草収量はC. S. が1,030 疋（反当）であるのに反し、他の改良種 S. S. (1), S. S. (2)及びT. S. は1,940～2,070 疋（反当）であつて、いずれもC. S. の約2倍の収量を示した。

3番刈生草収量はC. S. は1,200 疋（反当）であるが、改良種は初霜日の関係で、穂揃期まで充分生育させることが出来ず、生育の途中で刈取つたので、生草収量は150～200 疋（反当）で極めてすくなかつた。

しかしながら初霜の晚い地方では、3番刈もかなり

期待出来るものと考えられる。なおC. S. にみられるように刈取を行うにしたがつて生草収量が増加しているのが認められた。

さらに改良種の3番刈生草収量は、初霜の関係で生育途中で刈取つたので、はなはだすくなかつたにもかかわらず、その総生草収量はC. S. のそれと大差がないということは、現在U. S. A. においても、改良種が急速にC. S. にかわりつつあることからみてもC. S. よりもすぐれたものであると判断される。また、刈取を行うにしたがつて、生草収量の増加する傾向のある特性は、生育期間中に数回の刈取を行うための夏作飼料作物としては好適したものであると思われる。
